

進学説明会 資料

ルミエール府中

1

本日お話すること

- 都立高入試のしくみ**
- 今春の都立高入試を振り返って
- 都立高**学力検査問題**のポイント
- スピーキングテストについて
- 私立高入試のしくみ**
- 学費

2

1

2026 (R8) 年度 都立高入試日程 (全日制)

※推薦入試と一般入試（第一次募集）はインターネットによる出願です。

推薦入試	日程
志願者情報入力期間	2025(R7)年12月19日（金）～2026(R8)年1月16日（金）
書類提出期間	2026(R8)年1月9日（金）～16日（金）
検査	2026(R8)年1月26日（月）・27日（火）
合格発表	2026(R8)年2月2日（月）

一般入試（第一次募集）	日程
志願者情報入力期間	2025(R7)年12月19日（金）～2026(R8)年2月5日（木）
書類提出期間	2026(R8)年1月30日（金）～2月5日（木）
願書取下げ	2026(R8)年2月12日（木）
願書再提出	2026(R8)年2月13日（金）
学力検査等	2026(R8)年2月21日（土）
合格発表	2026(R8)年3月2日（月）

3

都立 推薦入試のしくみ

<推薦枠>

推薦入試の募集枠は普通科と理数科が募集人員の20%以内、農業科、商業科、ビジネスコミュニケーション科、工業科、科学技術科、水産科、産業科が40%以内、そのほかの学科が30%以内となっています。

【2025(R7)年度の府中高校の例】

募集人員	推薦枠	推奨	一般
316 (320)	20%	→ 64人	252人

推薦枠が狭いため、倍率は上がりやすくなる。
(2025(R7)年度の府中は137人が応募し2.14倍)

<文化スポーツ等特別推薦>

硬式野球やサッカー、バスケットボール、吹奏楽などの活動で、優れた技能や能力を評価する入試です。募集人員は種目別に定められており、上記の推薦枠に含まれます。

2025(R7)年度、府中高校はバレーボール女3人、ハンドボール男女3人で特別推薦を実施したが、この募集数は推薦枠64人に含まれる。

4

<出願>

推薦入試は志願する学校が**第一志望であること**が条件です。
第一志望校の学科（例えば工業科や農業科など）に複数の学科（機械科や電気科、都市園芸科や食品科学科など）がある場合は、**第二志望の学科を指定することができます。**
ただし、普通科とコースがある学校では、普通科を第一志望としてコースを第二志望とすること（またはその逆）はできません。また農業高校の農業系学科である食品科学科を第一志望として家庭科系学科である食物科を第二志望とする（またはその逆）こともできません。
異なる学科を第二志望に指定することはできないことになっています。

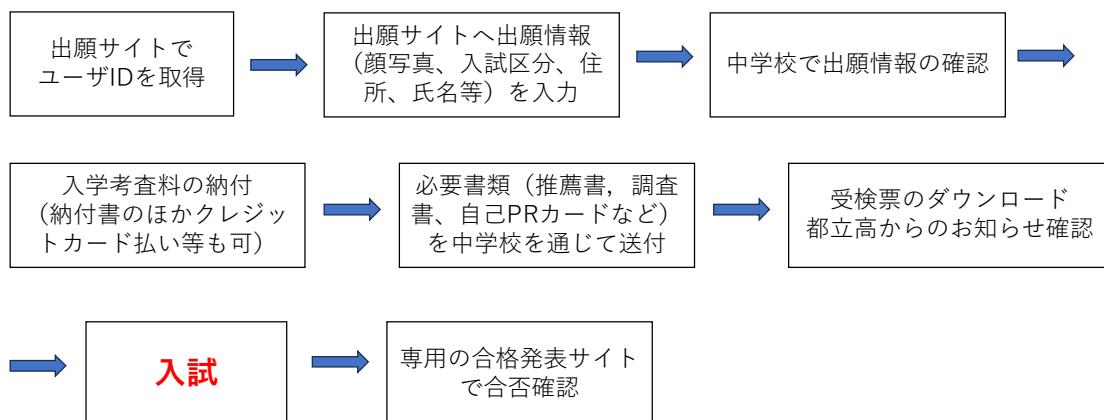
特別推薦に志願する場合は、1種目を指定して志願します。
また**志願した志望校の一般推薦にも同時に志願することができます。**

2025(R7)年度では特別推薦の志願者の71%が一般推薦にも志願した。

この場合、特別推薦と一般推薦の2回分の受検料が必要になる。

5

<インターネット出願について>



6

<検査>

志願者全員が**個人面接**を受けます。**集団討論**は学校によって実施の有無を決めています。そして**小論文または作文、実技検査**、そのほか学校が設定する検査の中から1つ以上を実施します。

<選考>

選考は、調査書、個人面接、実施した検査の結果を**点数化**し、その合計した成績（**総合成績**）によって合格者を決めていきます。集団討論を実施した場合は個人面接と合わせて点数化します。調査書点は観点別学習状況の評価または評定のどちらかを点数化します（ほとんど評定を活用）。**調査書点の満点は総合成績の50%以内**にすることになっています。

【2025（R7）年度の配点の例】

学校名	推薦枠	観点or評定	調査書点	個人面接	集団討論	小論文or作文	総合成績
調布北	20%	評定	500	200	—	小論文300	1000
調布南	20%	評定	500	300	—	小論文200	1000
府中東	20%	評定	450	250	—	作文200	900

総合成績の半分は調査書点が占めるので9教科の評定が推薦入試では重要。

7

都立 一般入試のしくみ

<応募資格>

一般入試（第一次募集）は、**推薦入試の合格者、中高一貫校の高校・後期課程に進学する予定**の人々は応募できません。

また、**都立産業技術高専の合格者**は、この一般入試（第一次募集）に出願していくことも受検することはできません。

<出願>

1校1学科（コース）を選んで出願します。

志望する学校の同じ学科に複数の学科がある場合（芸術科除く）は、**すべての学科に志望の順位をつける**ことができます（**推薦入試は第二志望まででした**）。

ただし、推薦入試同様、異なる学科に志望の順位をつけることはできません。

立川の創造理数科を第一志望とし、普通科を第二志望とすることはできる

できる		できない		できない	
府中工科の機械科を第一志望		小平の外国語コースを第一志望		瑞穂農芸の食品科を第一志望	
第二志望 電気科		第二志望 普通科		第二志望 生活デザイン科	
第三志望 情報技術科			×		×
第四志望 工業技術科					

8

<志願変更>

願書提出後、**1回に限り志願する学校を変更することができます。**

同じ高校の**異なる学科への変更も可能**です。同じ学科への変更はできません。

また、全日制高校から定時制高校、昼間定時制高校への変更もできません。

チャレンジスクールや一橋、荻窪などの昼間定時制高校から全日制高校への志願変更是可能です。

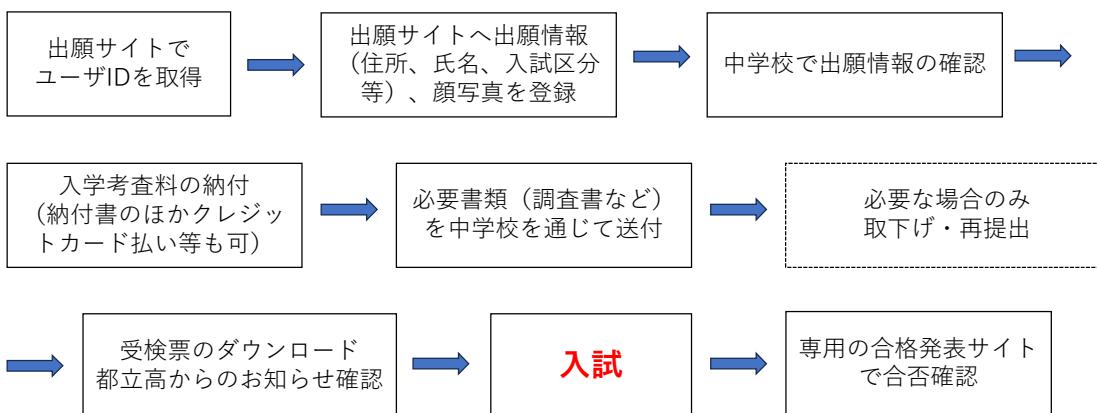
できる	できない
府中（普）	府中工科（機械）
松が谷（普）	府中工科（情報技術）
農業（食品科学）	農業（都市園芸）
八王子拓真（1部）	新宿山吹（普通科1部）
秋留台（普）	砂川（1部）
	青梅総合（定時制）
	拝島（普）

※秋留台(全日制)から八王子拓真(定時制)への変更はできません。

志願変更する人は応募者の5%程度。
志望校の変更を考えなくともいいように、
志望校選択は慎重に行おう。

9

<インターネット出願について>



10

<学力検査>

学力検査は**国語、数学、英語、社会、理科の5教科**実施されます。

芸術科と体育系学科は国語、数学、英語の3教科です。

英語にはリスニングテストが含まれます。

各教科の満点は100点です。特定の教科を重視して配点を変える傾斜配点を行う学校もあります。

【時間割】

	開始	～	終了	時間	教科
集合	8:30				
第1時限	9:00	～	9:50	50分	国語
第2時限	10:10	～	11:00	50分	数学
第3時限	11:20	～	12:10	50分	英語
第4時限	13:10	～	14:00	50分	社会
第5時限	14:20	～	15:10	50分	理科

<傾斜配点実施校>

- 小平「外国語」・英2倍
- 松が谷「外国語」・国英2倍
- 多摩科学技術・数理1.5倍
など

休み時間は20分、
昼食時間の60分と合わせて
この時間をじょうずに使う
ようにしよう。

11

<選考>

選考は、**調査書と学力検査の結果**、面接や実技検査を実施した場合はその結果、さらにスピーキングテストの評価を**点数化し、その合計点（総合成績）によって行われます。**

点数化する時、5教科で実施する学校は**学力検査と調査書を7:3の割合で学力検査を700点、調査書点を300点に換算し、合計して1000点満点にします**。これにスピーキングテストの結果を加えた得点を**総合得点**といいます。スピーキングテストの結果は**20点満点**で点数化します（後述）。芸術科と保健体育科は6:4で、学力検査を600点、調査書点を400点として1000点満点にします。

【総合得点の出し方】



12

【例】学力検査の得点が**5教科合計で300点**、内申が**オール3**、スピーキングテストの結果が**B**の生徒の総合得点の計算

[学力検査点]

$$300 \times 1.4 = 420$$

[調査書点]

$$\text{換算内申} \cdot 5\text{教科} \times 1(15) + \text{実技} 4\text{教科} (12) \times 2(24) = 39$$

$$39 \times 300 \div 65 = 180$$

[スピーキングテストの結果]

$$B = 16$$

$$+ 616 \rightarrow \text{総合得点}$$

学力検査点は総合得点の約7割を占める。
試験当日の得点力がもっとも重要。
調査書に記載される評定は12月末の時点のもの。
調査書点は自分の持ち点。
ひとつでも上げる努力をする。

なお芸術科・体育科の**3科入試校**は以下のようになる。

[学力検査点]

$$\text{国数英3科の得点} \times 2 = 600\text{点満点}$$

[調査書点]

$$\text{国数英3科} \times 1 + \text{残りの6科} \times 2 = 75\text{点満点} (\text{換算内申})$$

$$\text{換算内申} \times 400 \div 75 = 400\text{点満点}$$

13

<第二次募集・追検査>

第一次募集で欠員が生じた学校は第二次募集を行います。

また、インフルエンザ等（新型コロナウイルス感染症も含む）で第一次募集を受検できなかった生徒に対する追検査はこの日程で実施されます（ただし志願変更はできません）。

一般入試（第二次募集）	日程
出願受付（窓口）	2026(R8)年3月 5日（木）
願書取下げ	2026(R8)年3月 6日（金）
願書再提出	2026(R8)年3月 9日（月）
学力検査等	2026(R8)年3月10日（火）
合格発表	2026(R8)年3月13日（金）

【応募資格】

第二次募集は推薦入試、一般入試の第一次募集等の合格者、中高一貫教育校の高校・後期課程への進学予定者、都立産業技術高専の合格者は応募できません。

14

【出願と志願変更】

第二次募集は実施校の1校に出願します。志望校に複数の学科があり、それらの学科でも募集がある場合はほかのすべての学科に志望の順位をつけることができます。

第一次募集でできなかった異なる学科への順位付けも可能です（芸術科を除く）。なお、出願はすべて紙により志望校の窓口に提出します。

追検査は第一次募集で第一志望とした学科のみに出願します。

できる	
小平の外国語コースを第一志望	
第二志望	普通科
	○

できる	
瑞穂農芸の食品科を第一志望	
第二志望	生活デザイン科
	○

願書提出後1回に限り志願変更することができます。第一次募集と同様で、チャレンジスクールや荻窪、八王子拓真（一般枠）などから全日制への変更は可能ですが、全日制から昼間定時制への変更はできません。

また、追検査に出願した場合、志願変更はできません。

15

【学力検査】

学力検査は国語、数学、英語の3教科で、追検査の場合はこれ以外に面接、小論文、作文、実技検査、学校設定検査（社理の内容を含む検査）から学校が選んで実施します。

【時間割】

	開始～終了	時間	教科
集合	8：30		
第1時限	9：00～9：50	50分	国語
第2時限	10：10～11：00	50分	数学
第3時限	11：20～12：10	50分	英語

【選考】

学力検査の得点と調査書の比率は**6：4**です。

学力検査の得点を600点に換算し、調査書点は国語、数学、英語の3教科を1倍、その他の教科を2倍した75点満点の換算内申を400点に換算します。

追検査の比率は7：3で、学力検査の得点と学校設定検査を合わせて700点に、調査書点は学校設定検査を実施する学校は国語、数学、英語、社会、理科の5教科を1倍、実技4教科を2倍して65点満点の換算内申を300点に換算、学力検査のみの場合は3教科1倍、その他の6教科を2倍した75点満点を300点に換算します。

16

2026 (R8) 年度の変更点と募集枠

<分割募集の廃止（全日制のみ）>

全日制の一部の学校で実施していた「分割募集」が廃止されます。
多摩地区では**府中東, 山崎, 東村山, 羽村, 秋留台, 野津田**がこれまで分割募集を実施していましたが、来年度からは募集人員のすべてを第一次募集で選考します。
なお昼夜間定時制（荻窪、砂川、八王子拓真など）では例年通り分割募集を実施します。

<通信制の募集が2回になります>

これまで4月に実施していた通信制の募集を前期と後期の2回に分けて行います。
前期は2月22日、後期はこれまで通り4月に実施されます。
砂川, 新宿山吹, 一橋の3校が通信制課程を設置しています。

<募集枠>

今の中学生3年生の生徒数は77,572人で前年度より237人減っています。
これにより、来年度の都立高校の募集枠は100人少ない40,700人になります。

17

2025 (R7) 年度 都立高入試概況

<推薦入試概況>

【文化・スポーツ等特別推薦】
文化・スポーツ等特別推薦の募集人員907人に応募者は1,729人、**応募倍率1.91倍**で1倍台に戻りました。右のグラフにあるように、今春の応募倍率は低い方ですが、それでも一定の人気は保っているといえるでしょう。



【推薦入試】

しかし全日制の推薦入試（文化・スポーツ等特別推薦の募集数含む）の募集人員9,407人に対し応募者は21,467人、**応募倍率は2.28倍**（前年度2.48倍）で前年度より0.2ポイントダウンし、普通科に推薦制が導入された1995（H7）年度以降でもっとも低い倍率を記録しました。文化・スポーツ等特別推薦の倍率が例年とそれほど変わらなかったことから、一般推薦の応募者が大幅に減少したことになります。生徒数に対する推薦応募率も横ばいから減少に変わり（2021（R3）年度より33.3→30.4→29.8→30.0→**27.6%**）推薦離れが加速しました。

18



学科別でみると**普通科の応募倍率は2.61倍**（前年度2.87倍）、**コース制1.91倍**（同2.64倍）、**単位制普通科は2.64倍**（同2.97倍）と普通科は軒並み大幅ダウンしました。一方で専門学科は、**商業科1.44倍**（同1.44倍）、**工業科（単位制除く）1.23倍**（同1.25倍）、**ビジネスコミュニケーション科1.55倍**（同1.58倍）とほぼ前年度並みになったほか、**農業科は2.06倍**（同1.84倍）と逆に上がりました。

家庭科（単位制除く）1.92倍（同2.11倍）、**産業科1.47倍**（同1.67倍）など下がった学科もありましたが、専門学科全体では**1.52倍**（同1.56倍）と微減でとどまり、この最低倍率の原因是普通科によるものだといえるでしょう。

推薦合格者数は9,243人でした。受検者（21,404人）に特別推薦と一般推薦両方に応募した人数がカウントされているため一概に言えませんが、半数以上の生徒が不合格になっていることになります。

しかし多摩地区の普通科では野津田と多摩で欠員が生じ、専門学科では多摩工科「デュアルシステム科」が定員を満たすことができませんでした。立川「創造理数」は学校が定めた基準に達した生徒が少なかったのか、応募者は募集人員（8人）を超えた（9人）ものの、5人の合格者でとどまりました。

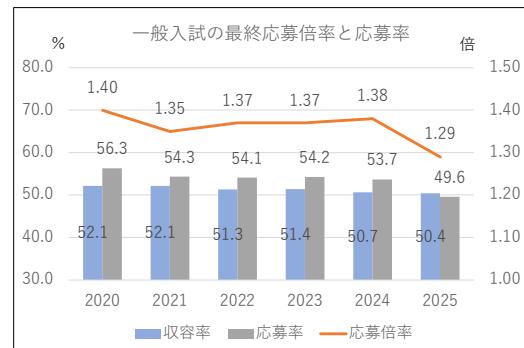
19

<一般入試概況>

【応募状況と志願変更】

全日制の**募集人員30,078人**（海外帰国生徒募集含む）に対し、2月5日までの応募者数は38,739人、**応募倍率は1.29倍**でした。その後志願変更があり、**願書を取り下げた人数は1,747人、応募者の4.5%**前年度（5.1%）でした。志願変更後の**最終応募者数は38,718人**、最終応募倍率は変更前から変わらず**1.29倍**（前年度1.38倍）になりました。この倍率はいまの入試制度になった1994（H6）年度以降の最低倍率です。生徒数に対する応募率は**49.6%**、前年度（53.7%）より下がってついに5割を切りました。このように応募倍率が大幅に下がったのは東京都の私立高に対する授業料軽減助成金制度の年収制限が撤廃されたことが影響したと考えられます。

募集人員	応募者数	倍率	取下げ	取下げ率	最終応募者数	倍率
30,078	38,739	1.29	1,747	4.5	38,718	1.29



それでも都立高入試は首都圏の公立高入試で突出して倍率が高い地域もあります。

【他県公立の状況】

地域	倍率
埼玉	1.10倍
千葉	1.14倍
神奈川	1.17倍

20

【学科別応募状況】

学科別でみると、普通科は**1.36倍**で前年度より0.11ポイントの大幅ダウン、コース制は0.4ポイント、単位制普通科も0.12ポイント下がり、普通科全体でも0.11ポイントダウンしました。

一方で専門学科も商業科、家庭科、産業科などで下がっていますが、専門学科全体では0.03ポイントのダウンでとどまり、推薦入試同様、私立高の授業料の措置が都立高の普通科に強く影響を及ぼしたということができます。

【受検状況と受検棄権率】

全日制の受検者数は35,877人、**受検倍率は1.20倍**で前年度（1.29倍）より0.09ポイント下がっています。受検を棄権した人は2,714人、**受検棄権率は7.0%**で前年度（2,831人、6.8%）より上がりました。応募倍率が下がったものの、棄権率が上がったところにも私立志向の高まりを感じさせます。

学科	'22	'23	'24	'25
普通科男子	1.46 ↘ 1.45	↗ 1.47 ↘ 1.36		
普通科女子	1.46 → 1.46			
コース制	1.58 ↘ 1.46 ↗ 1.63 ↘ 1.23			
単位制普通科	1.48 ↘ 1.42 ↗ 1.46 ↘ 1.34			
普通科計	1.44 → 1.44 ↗ 1.45 ↘ 1.34			
商業科	0.85 ↗ 0.96 ↗ 1.02 ↘ 0.98			
工業科	0.85 ↘ 0.74 ↗ 0.79 ↘ 0.78			
農業科	1.09 ↗ 1.17 ↘ 1.15 ↗ 1.30			
家庭科	0.65 ↗ 1.00 ↘ 0.97 ↘ 0.87			
産業科	1.13 ↘ 1.01 ↗ 1.07 ↘ 0.97			
専門学科計	1.04 ↘ 1.02 ↗ 1.04 ↘ 1.01			
総合学科	1.14 ↗ 1.28 ↗ 1.33 ↘ 1.25			
全日制計	1.37 → 1.37 ↗ 1.38 ↘ 1.29			

21

【合格者の状況と実質倍率】

合格者数は28,188人、**実質倍率は1.27倍**で前年度（1.35倍）より0.08ポイントダウン、受検倍率の1.20倍に対し実質倍率が0.07ポイント上がったのは、定員割れが多く合格者が募集人員より少なかったからです。

年度	募集人員	合格者数	差
'25(R7)	29,976	28,188	-1,788
'24(R6)	30,241	28,996	-1,245

※帰國募集除く

一方で、**不合格者数は7,689人**で前年度（10,058人）より2,400人ほど減少し、それまでの厳しさが緩和されました。しかしそれでも2割強の受検生が涙をのんでいます。

欠員も不合格者も多いのは偏った入試になっているから。
高倍率校と低倍率校の差が大きくなっている。



22

●普通科（単位制普通科含む、コース制除く）の学力別不合格者数

偏差値	学校名	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
60～	国立などの重点校7校のほか、竹早、三田、駒場、小松川、武蔵野北、小金井北、国分寺	2,149	1,887	1,752	1,681
55～	豊多摩、北園、町田、日野台、調布北、昭和、文京、上野、目黒、南平、小平、狛江など	2,143	1,872	1,820	1,503
50～	江戸川、東大和南、清瀬、神代、石神井、豊島、小平南、調布南、雪谷、広尾、府中など	2,153	2,229	1,907	1,607
45～	武蔵丘、東、向丘、杉並、本所、松が谷、保谷、鷺宮、小岩、富士森、日野、東大和など	1,484	1,675	1,728	1,128
40～	高島、足立、小川、松原、紅葉川、田無、府中西、片倉、府中東、大崎、福生など	918	984	855	539
30～	足立西、日本橋、久留米西、竹台、八王子北、小平西、葛飾野、武蔵村山、永山など	281	450	745	340

23

【進学相談会参加校の一般入試の選抜状況①】

学校名	募集人員	最終応募	倍率	受検者数	倍率	合格者数	実質	前年
国立	252	386	1.53	357	1.42	258	1.38	1.41
小平南	221	287	1.30	272	1.23	226	1.20	1.52
狛江	253	459	1.81	422	1.67	257	1.64	1.45
調布北	188	325	1.73	301	1.60	191	1.58	1.41
調布南	189	315	1.67	287	1.52	191	1.50	1.54
永山	243	235	0.97	225	0.93	225	1.00	1.24
府中	252	349	1.38	320	1.27	255	1.25	1.76
府中西	237	254	1.07	238	1.00	238	1.00	1.19
府中東	240	302	1.26	289	1.20	240	1.20	1.45

24

【進学相談会参加校の一般入試の選抜状況②】

学校名	学科	募集人員	最終応募	倍率	受検者数	倍率	合格者数	実質	前年
農業	都市園芸	21	33	1.57	33	1.57	22	1.50	2.18
	食品科学	21	36	1.71	35	1.67	22	1.59	1.23
	緑地計画	21	23	1.10	22	1.05	22	1.00	1.00
	計	63	92	1.46	90	1.43	66	1.36	1.47

学校名	学科	募集人員	最終応募	倍率	受検者数	倍率	合格者数	実質	前年
農業	服飾	25	23	0.92	23	0.92	24	0.96	1.54
	食物	25	34	1.36	33	1.32	26	1.27	1.42
	計	50	57	1.14	56	1.12	50	1.12	1.48

25

【進学相談会参加校の一般入試の選抜状況③】

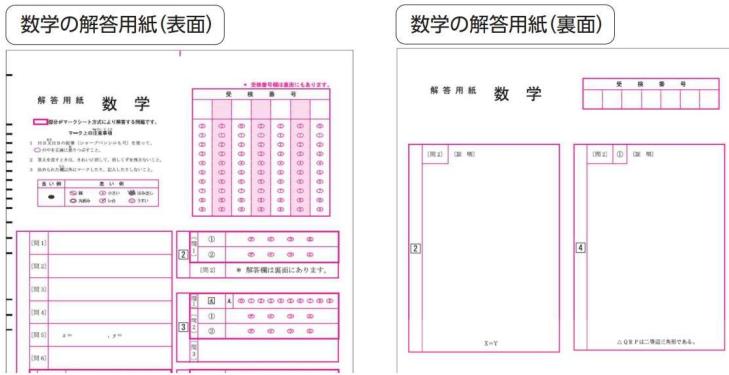
学校名	学科	募集人員	最終応募	倍率	受検者数	倍率	合格者数	実質	前年
府中工科	機械	21	23	1.10	22	1.05	21	1.05	1.00
	電気	42	25	0.60	25	0.60	32	0.78	1.00
	情報技術	21	42	2.00	36	1.71	21	1.71	1.00
	工業技術	21	19	0.90	14	0.67	21	0.67	1.00
	計	105	109	1.04	97	0.92	95	1.02	1.00

学校名	学科	募集人員	最終応募	倍率	受検者数	倍率	合格者数	実質	前年
第五商業	商業	126	164	1.30	164	1.30	127	1.29	1.17

26

都立高 学力検査問題のポイント

【マークシート方式】



マークシート方式の注意点

- 鉛筆が適しているが、シャープペンシルを使用する場合は芯の太さが**0.5mm以上**のものを使う
- 芯の濃さは**HBまたはB**がよい
- マークの塗り方は、枠内を**黒くていねいに塗りつぶす**
- マークを塗りつぶす時間がかかるので**時間配分に注意する**
- マークシート方式は慣れが必要。模試などで体験しておこう

27

【受検者平均点の推移】

年度	国語	数学	英語	社会	理科	5教科計
2025(R7)	75.0	60.4	63.7	59.9	59.2	318.2
2024(R6)	75.9	61.7	66.9	55.5	66.8	326.8
2023(R5)	80.8	57.6	62.8	55.6	59.4	316.2
2022(R4)	68.8	59.0	61.1	49.2	61.4	299.5
2021(R3)	72.5	53.3	54.1	54.6	47.8	282.3
2020(R2)	81.1	61.1	54.7	57.0	53.4	307.3

各教科とも60点前後の平均点になることが多い。
2025(R7)年度は国語が高い今まで理科がダウンし2023(R5)年度の水準に戻った。

28

【国語】

大問	問題分野	配点	正答率
①	漢字の読み	10点	89.2%
②	漢字の書き	10点	65.9%
③	文学的文章の読解	25点	82.0%
④	説明的文章の読解	30点	68.7%
⑤	古典を引用した文章の読解	25点	58.5%

<まとめと指導の改善の視点>

- ③登場人物の心情について、叙述や描写に即して正しく理解すること。
- ④文章中に示された具体例と、書き手の主張との関係を考えながら内容を把握する。
- ⑤情報の適否を見極めながら整理して読み進める。

①(2)陸上選手の跳躍 (71.6%)
 ②(5)海外留学のためのリヨケン (40.6%)
 答①(2)ちょうやく、②(5)旅券
 ④(5)200字の作文 (10点、77.4%)

作文のポイント

- テーマに即した自分の意見、主張を適切に書く
- 筆者の主張を踏まえて書く
- 自分の意見、主張の根拠となる具体的な体験や見聞について書く
- 200字の作文を書くのにどれくらいの時間が必要かつかんでおく

29

【数学】

大問	問題分野	配点	正答率
①	小問集合	46点	65.1%
②	数理的考察	12点	45.0%
③	関数	15点	54.0%
④	平面図形（半円）	17点	43.0%
⑤	空間図形（直方体）	10点	30.9%

<まとめと指導の改善の視点>

- ④图形の中の合同な图形や相似な图形、平行線などに着目して既習事項に関連付けて考える。
- ②④問題文から条件を読み取り立式する。推論の過程を根拠に基づき相手にわかりやすく伝える
- ⑤実際に立体を作る。立体の見取り図、展開図、投影図を用いてその图形の持つ性質を読み取る。空間における图形の位置関係を捉えたり、空間图形を平面图形に帰着させて考える。

$$\text{①}(2) \frac{9a-b}{5} - a + 2b \quad (26.9\%)$$

$$(6)x^2 - 9x + 7 = 0 \quad (79.4\%)$$

$$\text{答 } (2) \frac{4a+9b}{5} \quad (6) \frac{9 \pm \sqrt{53}}{2}$$

(9)作図 (6点、58.5%)

②(2)証明 (7点、20.4%)

④(2)①証明 (7点、65.8%)

ポイント

- ①で確実に得点する
- 作図、証明問題は部分点がつくので、途中までしかできなくても書いておく
- 大問の最初の問い合わせすべて手を付ける（正答率が高い問題が多い。）
- ②(1)69.6%、③(1)76.5%、④(1)59.6%

30

【英語】

大問	問題分野	配点	正答率
①	リスニング	20点	52.5%
②	対話文と図表の読み取り	24点	59.2%
③	対話文の読解	28点	61.9%
④	物語文の読解	28点	53.5%

- ①B(2)英問英答 (4点、36.5%)
 ②3 (2)条件英作文 (12点、53.7%)
 ④(2)並び替え (整序問題)
 (4点、36.2%)

ポイント

＜まとめと指導の改善の視点＞
 ①②まとまりのある文章を聞いたり読んだりして、コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて必要な情報、概要、要点を捉える力を高める。自分の考えを英語で表現する力を高める。
 ③④まとまった量の文章を用いて、時系列に沿って対話の流れや登場人物の考え方を把握する。物語文のあらすじや登場人物の心情を把握する力を高める。

- リスニングは 5W1H
- 英作文は条件に従って書く。
文法やスペルのミスはしない
- 長文を速く正確に読むこと

31

【社会】

大問	問題分野	配点	正答率
①	小問集合	15点	66.4%
②	世界地理	15点	51.5%
③	日本地理	15点	55.1%
④	歴史	20点	48.8%
⑤	公民	20点	55.5%
⑥	3分野総合	15点	45.0%

- ③(3)鉄道が延伸されたとき、移動手段の利便性の変化 (65.8%)
 答：新駅を利用してことで観光地の間を移動する利便性が高まる。
 ④(3)論述問題 (68.4%)
 ⑤(4)論述問題 (58.1%)

ポイント

＜まとめと指導の改善の視点＞
 地理…地図帳を活用し、複数の地理情報を関連付けて考察し、地域的特色を理解する。
 歴史…日本史の大きな流れについて、世界の歴史を背景に各時代の特色を理解する。様々な資料を活用し、歴史的事象を考察する。
 公民…日本国憲法の基本的な考え方、政治や経済の諸制度の成り立たせている考え方や仕組みを理解する。

- ①を解いた後は得意な分野から手を付ける
- 論述問題は、社会的事象から課題をみつけ、多面的・多角的に考察し適切に表現する。

32

【理科】

大問	問題分野	配点	正答率
①	小問集合	24点	63.0%
②	科学的思考力	16点	47.8%
③	地球	16点	48.7%
④	生命	12点	69.7%
⑤	粒子	16点	39.6%
⑥	エネルギー	16点	39.8%

<まとめと指導の視点>

- ②力の働きや規則性について図や実験結果を分析して解釈する。
 ⑤原子や分子のモデルを用いて考察し、微視的に事物・現象をとらえる学習を充実させる。

①(2)太陽系の惑星は小型で密度が大きい①と大型で密度が小さい②に分けられる。太陽系の惑星のうち太陽からの距離が地球より遠いところを公転している①は③である。(58.5%)

答(ア)①地球型惑星、②木星型惑星、③火星

ポイント

- 社会同様、①を解いてから得意な分野順に取り組む
- 観察・実験は必ず出題されるので、教科書にて観察や実験について、「目的」「やり方」「起こった変化」「結果」「使用した器具とその名称、役割」をセットで覚える。

33

スピーキングテストについて

- 2023（R5）年度入試より、**スピーキングテストの結果が総合得点に加算**して選考されています。
- 加算されるのは**第一次募集・分割前期募集のみ**で、推薦入試と分割後期・第二次募集は対象外です。また学力テストを行わないエンカレッジスクールやチャレンジスクールでもスピーキングテストの結果は活用されません。

●評価の点数化

スピーキングテストはA～Fの6段階で評価され、調査書にはA～Fで記載されます。都立高校ではその評価を下記の得点にあてはめて総合得点に加算します。

結果の評価	A	B	C	D	E	F
得点	20点	16点	12点	8点	4点	0点

34

学力検査（500→700点）

調査書点（45→300点）

+スピーキングテスト

20点満点 = **1020点満点**

●不受検者の扱い

英語の学力検査の得点で順位を決め、スピーキングテストと同じ順位の上下5人ずつ以上の点数の平均値を下記の表に当てはめ、それを不受検者のスピーキングテストの結果とします。

18点以上→A
6~10点未満→D14~18点未満→B
2~6点未満→E10~14点未満→C
2点未満→F

35

●出題のねらいと形式

Part	出題のねらい	出題数	評価の観点
A	英文を読み上げる形式の問題で、英語音声の特徴を踏まえ音読できる力をみる。	2	○音声（発音と強勢、音読するペースや間の取り方などが適切か）
B	図示された情報を読み取り、それに関する質問を聞き取った上で、適切に応答する力や、提示された情報をもとに「質問する」、「考えや意図を伝える」、「相手の行動を促す」など、やり取りする力をみる。	5	○コミュニケーションの達成度（求められていることに適切に対応しているか） ○言語使用（語彙や文法、文構造の使用が適切か）
C	日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力をみる。	1	○音声（発音、話すペースや間の取り方などが適切か）
D	身近なテーマに関して聞きたいことについて、自分の意見とその意見を支える理由を伝える力をみる。	1	○音声（発音、話すペースや間の取り方などが適切か）

36

●2024(R6)年度実施の得点状況と評定割合の比較

A～Fの段階別分布は下記の左の表のとおりです。また右の表は2024(R6)年度（2025(R7)年度受検生）の中学生3年生の英語の評定状況です。スピーキングテストの評価はABCで全体の8割強を占めています。AとBでも半数を超える（62.9%）ました。英語の評定のように真ん中の「3」がもっと多く、「4」「5」と上がるっていくにつれ割合が少なくなるという形ではありません。従って受検校の中では多くの生徒が同じような評価になっていると考えられるため、スピーキングテストの結果が合否に大きな影響を与えているのはいえないようです。

しかし、ふだんから教材などを使って英語を音読するなどの対策は必要でしょう。

段階別評価	分布
A	31.3%
B	31.6%
C	22.2%
D	9.7%
E	4.6%
F	0.5%

英語の評定	評定割合
5	13.9%
4	20.0%
3	42.9%
2	18.4%
1	4.8%

37

私立高入試のしくみ

<推薦入試>

【出願条件】

- ①第一志望であること
- ②校長先生の推薦書があること
- ③志望校の推薦基準に達していること
- ④原則として「入試相談」を行ってから出願する

<推薦基準>

- 多くの場合、内申で示される
例>9科36or5科20or3科12
※実技は2倍しない（そのまま単純合計）
- 欠席日数や遅刻・早退の数も条件に加わることがある
- 検定試験の資格や部活動・校外活動の実績を評価することも多い（加点措置、加点制度）

<入試相談>

- 私立高校と中学校の先生との間で、推薦基準に達しているか、どのような中学校生活を送ってきたのかを確認し「合格の可能性」を伝える場。
- 毎年12月15日から数日間行われる

38

<一般入試>

●併願優遇

- 第一志望優遇（単願優遇）
- フリー受験

<併願優遇>

- 第一志望校が他にあり、おもにその私立高校を第二志望として受験する場合に利用する制度。
- 第一志望校に不合格になった場合、入学する必要がある（条件あり）。
- 推薦入試同様、**内申等の基準がある**
欠席日数や遅刻・早退の数が条件に加わったり、**検定試験の資格や部活動・校外活動の実績**を評価されるのも推薦入試同様（ただし推薦入試と内容が異なることがある）。
- 都立高校を第一志望とする場合が多いが、**他の私立高校を第一志望として受験**できる場合や**複数校の受験**を認める学校も増えている。
- 原則として「**入試相談**」が必要
- 併願優遇を行っていない私立高校も多い

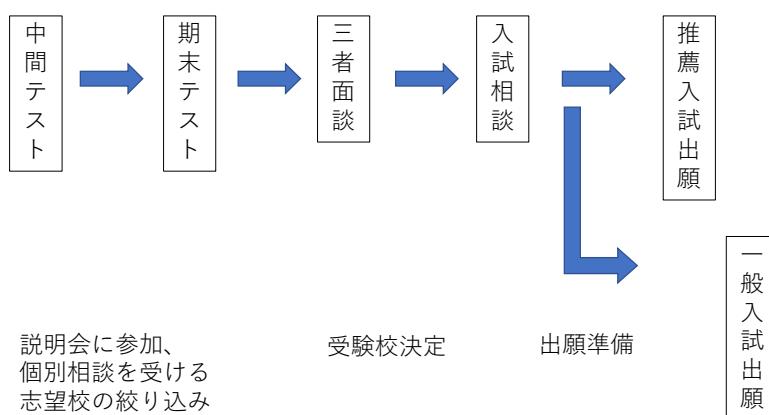
条件があれば併願優遇は利用したほうが良い。第一志望校の受験に集中できる。
ただし、入学しても充実した高校生活が送れると判断できる高校を選択すること。

<フリー受験>

- 試験当日の検査の結果と調査書等で合否が決まる。
- 入試相談は必要ない
- 可能な範囲で自由に受験できる

39

<スケジュール>



40

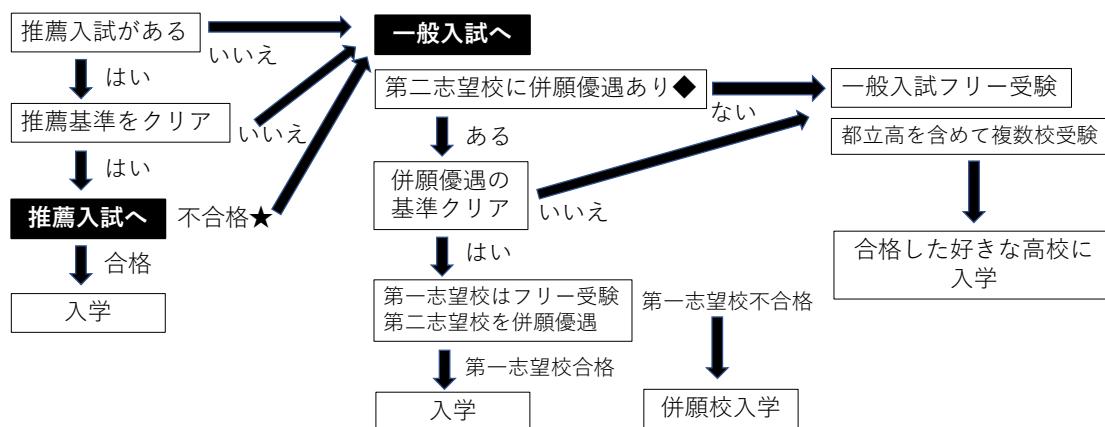
<併願パターン>

- 私立高校が第一志望
- 都立高校が第一志望

★推薦不合格者の一般再受験は優遇されることがあります。

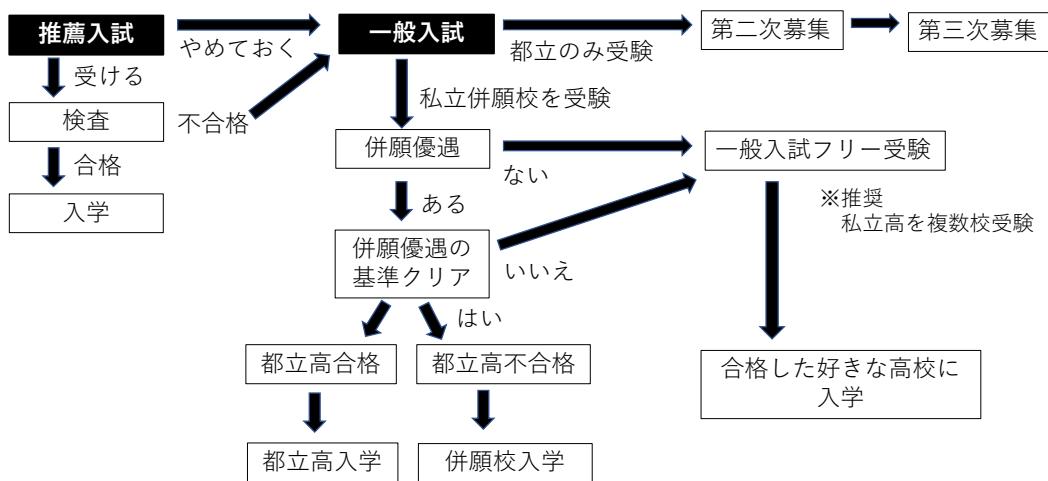
◆私立併願可能の併願優遇のことです。

【私立高校が第一志望】



41

【都立高校が第一志望】



42

<2026（R8）年度の推薦・併願基準①>

※必ず募集要項、説明会等でご確認ください。

学校名	推薦	併願区分	併願優遇
共立女子第二	特進 9科36or5科21 総合進学 9科30or5科16or3科10 英語 9科30or5科16or3科10 ただし英検準2級or英「4」	私立併願可	特進 9科38or5科22 総合進学 9科32or5科18or3科12 英語 9科32or5科18or3科12 ただし英検準2級 & 英「4」
錦城	進学 5科21	2/10公立併願	特進 併①9科38and5科23and3科14 併②基準 I 3科15 進学 併①9科37and5科22
啓明学園	9科30or5科17or3科11	私立併願可	9科31or5科18or3科12
駒澤大学	9科34 & 5科20	私立併願可	9科38 & 5科21
駒場学園	特進 5科19or3科12 国際 5科18 or3科11 進学 9科29or5科16or3科10 食物 5科16 or3科9	私立併願可	特進 5科21 or3科12 国際 5科19 or3科11 進学 5科18 or3科10
下北沢成徳	グローバル 9科31or5科16or3科10 ブロード 9科28or5科15or3科9 セレクト 5科18or3科11	私立併願可	グローバル 9科32or5科17or3科11 ブロード 9科29or5科16or3科10 セレクト 5科19or3科12

43

<2026（R8）年度の推薦・併願基準②>

※必ず募集要項、説明会等でご確認ください。

学校名	推薦	併願区分	併願優遇
聖徳学園	難関国公立 9科37or5科22 文理進学 9科35or5科20 データサイエンス：9科36(出願資格)	私立併願可	難関国公立 9科38or5科23 文理進学 9科36or5科21 データサイエンス：9科37(出願資格)
昭和第一学園	英語 5科21 選抜進学 9科31or5科18 総進文理 9科28or5科17 総進探究 9科27or5科16 デザイン 9科28or5科17ただし美「4」	私立併願可	英語 5科22 選抜進学 9科32or5科19 総進文理 9科30or5科18 総進探究 9科28or5科17 デザイン 9科30or5科18ただし美「4」
白梅学園	特選国公立 5科23 特選文理 9科35or5科20or3科12 選抜 9科32or5科17or3科11 進学 9科29or5科16	私立併願可	特選国公立 5科23 特選文理 9科35or5科20or3科12 選抜 9科33or5科19or3科12 進学 9科31or5科17
拓殖大学第一	特進 5科23 & 3科14 進学 5科20 & 3科12	私立併願可	特進 9科39 & 5科23 & 3科14 進学 5科22 & 3科13
大成	特進 5科19 文理進学 9科29or5科17 情報進学 9科28or5科16	併願	特進 5科19 文理進学 9科31or5科18 情報進学 9科30or5科17

44

<2026（R8）年度の推薦・併願基準③>

※必ず募集要項、説明会等でご確認ください。

学校名	推薦	併願区分	併願優遇
立川女子	特別進学 5科16or3科10 総合 9科24	私立併願可	特別進学 5科17or3科11 総合 9科25
中央大学附属	9科に1, 2不可	-	-
東京電機大学	男 5科19、女 5科18	私立併願可	5科21（府中市は5科20で可）
八王子実践 (前年度参考)	J 特進 5科22 特選 5科21 特進 5科20 選抜 9科31or5科17 総合進学 9科28or5科16	私立併願可	J 特進 5科23 特選 5科22 特進 5科21 選抜 9科32or5科18 総合進学 9科30or5科17
文化学園大学 杉並	特進 5科19 進学 9科29or5科17 DD 5科20 & 英検2級	私立併願可	特進 5科20
東京文華 (現文華女子)	普 9科27or5科15	私立併願可	普 9科29or5科17

45

<2026（R8）年度の推薦・併願基準④>

※必ず募集要項、説明会等でご確認ください。

学校名	推薦	併願区分	併願優遇
明治学院東村山	男女 9科38or5科22	私立併願可	S併願：男女40, A併願：男女9科38（30点加点）
明星	SMGS 5科22 MGS 9科34or5科20 本科 9科32or5科19	私立併願可	SMGS 5科22 MGS 9科36or5科20 本科 9科34or5科20

46

<2026（R8）年度入試の変更点>

※必ず募集要項等で確認してください。

学校名	変更点
八王子実践	特進コース特選クラス募集停止。特進はJ特進と特進の2クラスに
錦城	加点制度の変更（検定によるみなし評定を廃止し、国語は漢検2級、数学は数検準2級、英語は英検準2級で内申基準に+1と変更）
駒澤大学	特例基準の変更（英検準2級プラスを英検準2級の場合の特例に加える、など）
拓殖大学第一	加点項目の縮小（「部活動3年間継続」「3年間皆勤」「生徒会役員・委員会委員長」を削除）
東京電機大学	検定準2級or検定3級を2つの場合の基準を廃止
文化学園大学杉並	イノベーションリーダーズコース新設（募集人員：推10、一般10人）
文華女子	女子校から共学校へ。校名を「東京文華」に変更
明星	募集人員減：330人(推110,一般210) → 230人(推80,一般150)

47

学費支援制度

年収の目安	国の就学支援金	授業料軽減助成金	合計	2025(R7)年度 都内私立高初年後納付金の平均額
約910万円以上				
約910万円～約590万円	118,800円	+ 371,200円	490,000円	
約590万円未満	396,000円	+ 94,000円		

項目	平均額
授業料	500,648円
入学金	254,311円
施設費	35,715円
他	197,397円
計	987,437円

なお、**都立高**の授業料も国の就学支援金の対象で118,800円が支援されます。
このほか、入学金（5,650円）、教材費や旅行積立金、PTA会費、体操服など15～25万円程度が別途必要になります。

48

以上で終わりです。

ありがとうございました。